

令和4年3月13日

共通教育再編 WG 座長

奥田 一雄 殿

教育学部長

岡谷 英明

共通教育再編 WG における検討状況に関する報告（案）に対する意見等について

3月14日締め切りの共通教育再編 WG 報告（案）につきまして、以下のような修正意見がありましたのでお知らせいたします。

○7. 今後の検討の進め方など

教育学部学務委員会から、「7 今後の検討の進め方など」（31 頁～）において、親 WG と子 WG との連携について言及はあったものの、肝心の親 WG における論議の進行そのものについても一言あっても良いように考える、との意見がありました。今後の検討の進め方につきましては新しいやりかたになると存じますが、教育学部は学部長が変わりますので、再度、合意形成をして進めていただければ幸いに存じます。

○1. 共通教育または学士課程教育の理念と目的、および人材育成における社会からの要請
第二段落 ×「本学の第4期中期目標・目的」→○「本学の第4期中期目標中期計画」

以上

令和4年3月14日

共通教育再編 WG 座長

奥 田 一 雄 殿

理工学部長

津 江 保 彦

「共通教育再編 WG における検討状況に関する報告（案）」に対する意見

1. 「共通教育再編 WG における検討状況に関する報告（案）」（以下「報告案」という。）は、ワーキンググループ（WG）からの報告なのか、WG を取り仕切った座長個人からの報告なのか判然としない。WG からの報告であれば、WG で議論したこと、及びその結果を記載すべきであると考ええる。「7. 今後の検討の進め方など」第3段落は座長の感想に読める。また第4段落は過去の回顧で不必要であると考ええる。
2. 「5. 全学出動担当体制」において、座長提案の3案の記載がある。第2回 WG で「新たなアイデア等があれば、具体的な数字をあげてご提案いただきたい」との要請に基づき、一委員から担当体制の私案が提出されたが、「座長は取り上げるに値しないと判断し、議論しなかった」等、記録として記載しておく必要はないか。
3. 報告案5ページに「共通教育卒業要件単位数」には「(科目区分) 数理・データサイエンス・AI 科目」の細目科目「数学、統計学、論理学、プログラミング他」が選択必修2単位となっているが、教育学部からの意見にもあった通り「『応用基礎レベル』と『数学・統計学・論理学ほか』のために授業担当者を確保することが困難であり」と同様、理工学部でも選択必修とされると授業担当者の確保が困難であり、特定の教員の授業負担が増えることが予想されるので、削除して頂きたい。
4. 「7. 今後の検討の進め方など」に WG の反省点を記載するのであれば、地域協働学部から出されている『毎回の WG は、開催時間の大半が座長からの提案とその説明に費やされており、その後若干の質疑応答がなされて終わっている。WG メンバー間の議論はほとんど無い（津江註：議論の場・時間が与えられていない）。現在の再編案は、WG の後に文書で提出された学部からの意見がある程度は反映させている面もあるが、実質的には座長がほぼ一人で創り上げたものと言っても良い。座長の意欲・努力・能力には大いに敬意を払うが、WG メンバー、さらには全学の知恵と経験をもつ方々が意見を寄せる場や議論をする場をしっかりと設定することにより、より良い再編案を作成することができるのではないと思われる。』『再編案検討の議論が現在の共通教育の評価に基づいてなされていないので、議論が地に足のついたものとなっ

ていない感がある。「共通教育はこうあるべきだ」「こうあることが望ましい」という考え方だけが先行しているように思われる。現在の共通教育の成果と課題に関する評価に基づく議論も必要であると考える。』という意見が出されており、その内容を記載すべきであると考える。

また、報告案には『親 WG は、検討体制の立て付けおよび委員構成の上で、主として部会の検討結果を集約して承認する役割を果たすように見えた。しかし実態は、親 WG は部会による検討課題以外の諸課題に取り組んだ。具体的には、全学出動担当体制や、履修ルールの見直し、カリキュラム編成の組織と方法、共通教育の理念と目的、共通教育の新しいカリキュラム設計およびその考え方、科目構成と要卒単位の配当などの重要案件であった。それぞれの案件について多数の資料と原案を作成し、委員と学部から総論から各論までの多岐にわたる質問と意見を受けた。』との弁明があるが、本来、初めに検討課題・論点・スケジュールやロードマップが示されるべきであった。WG の各回に座長が論題を提案して、それについて学部の意見を聞いてくるということが繰り返され、「原案に込めた座長の思い」についての説明はあったが、各学部から出された意見の検討、その上でコンセンサスを得る努力などがなかったのは、地域協働学部からの意見に加えた意見として申し述べたい。『現実的に、これらの案件について提案と議論、合意をひとり親 WG で 行うことは非常に困難であった。』という書きぶりは、反省点としてずれているのではないか。

5. 「7. 今後の検討の進め方など」に関しては、WG で議論や検討は行われていないと理解している。その認識で間違いなければ、『今後の検討体制について』を記載するのであれば、「一旦、本 WG を閉じて、今後は教育担当理事のもとに責任があり、教育担当理事の意向のもとで WG を仕切ることができる方を委員長として、委員の交代を含めて仕切りなおすことの可能性」を記載して頂くことを望む。

以上

共通教育再編 WG 最終報告に対するデータサイエンス部会意見

データサイエンス部会

前回の部会意見として、数理・データサイエンス・AI 科目の卒業要件単位数は選択必修を含めて6単位とすることには、強く反対いたしましたが、今回の最終報告には盛り込まれたままとなっています。文部科学省の認定に必要な4単位以外に2単位を選択必修とすることには改めて強く反対し、卒業要件からもはずすことを要望いたします。

前回の繰り返しになりますが、2単位を全学で選択必修とすることは、現状のスタッフで開講可能な科目すらわずかにしか設定できない状況においては大人数講義とせざるを得なくなるなど、教員に著しい負担をしいることになるだけでなく、学生にとっても応用基礎レベルの認定をうけることのない科目を選択必修として履修しなければならないのは、大きな負担となります。今後実施にむけた検討がなされていくであろう応用基礎レベルの科目は、各部局を中心として構成されていくものであり、その過程で選択可能な共通教育科目を組み入れたプログラムを検討する余地はありますが、現段階から選択必修とすることは、教員、学生双方にとって負担にしかありません。改めまして、数理・データサイエンス・AI 科目は4単位必修のみとするとともに、卒業要件については科目区分毎に細分化せず融通をもった運用ができる設定としていただきたいと思います。

【各学部等からの意見に対する座長回答】

――

「共通教育再編 WG における検討状況に関する報告（案）」に対して教育学部長、理工学部長、および、DS 部会長からご意見をいただき、ありがとうございました。

教育学部長に対しまして、座長から以下のように回答します。

今般の WG での議論の進め方、とくに親 WG における議論の進め方について、ご指摘のありましたように本文中に加筆いたしました。今後は、一方通行的な議事の進め方を改善し、座長と委員の間だけではなく、委員同士の活発な意見交換ができる検討体制をつくっていただければと望みます。

文言修正 2 点ご指摘いただき、ありがとうございました。

――

理工学部長からの意見に対しまして、座長から以下のように回答させていただきます。

本報告（案）は、共通教育再編 WG で出された案件と資料、それに対する議論と学部等からのご意見等を、WG 座長が WG を代表して WG の報告としてまとめたものです。従いまして、本報告（案）は単に座長個人からの報告ではなく、共通教育再編 WG の報告（案）であると認識しております。

本報告（案）は座長が執筆したものですので、その内容に WG で扱われていなかった事実や明らかな虚偽等が含まれていない限り、報告（案）の構成および使われている文言や文章、言い回しに座長の性格がある程度反映しております。また、本 WG を主催してきた立場からの見解も記載しました。これらは WG の責任者としての座長の裁量の範囲内に収まると考えています。

本報告（案）の趣旨は、今後の共通教育改革の検討のための引き継ぎという位置づけにしておりますので、7 回に亘って開催された本 WG で取り上げた課題や情報、意見等をできるだけ多く盛り込むことにしています。もちろん、本報告（案）に各 WG で出されたすべての情報や意見を網羅することはできませんので、本報告（案）の冒頭にも記載しましたとおり、WG の議事要録や各学部等から出された意見も併せて今後の検討の参考にさせていただきたいと考えています。WG にいただいた学部等からの意見とそれに対する座長の対応等の具体的状況は、各 WG の資料および議事要録にあたっていただければと思います。それゆえ、本報告（案）の内容を一言一句精査し、学部等からの了解を得るという手続きを踏んではおりません。ただし、WG 委員には全学教育機構会議に提出する報告（案）の最終確認を行っていただき

ます。

5つの教育科目区分は、その大枠をWGでご了解いただいたと認識しています。しかし、報告（案）にも記載しましたとおり、細目科目の教育目的や配置、授業科目の構成などについては、未確定です。5大教育科目区分のそれぞれの範疇に入る細目科目についての中身の議論は、今後の検討の中で進めていただければと考えます。

報告（案）の1の項目で記載しましたように、現行の共通教育の検証と評価を早急に行うことが重要と考えています。共通教育のカリキュラム、教育内容、教育方法、これらを通じた教育の成果について、それぞれの学部が所属教員および所属学生の意見等を聴取し、徹底的に総括されることが非常に大切です。それらの結果を踏まえ、これから検討していく新しい共通教育への展望が拓かれるのではないかと考えています。

本WGは、共通教育の改革のための具体的な課題を抽出しました。言い換えれば、解決しなければならない問題のありかを明らかにし、その問題を解決するための考え方と論点を提起したのではないかと考えています。本WGは、出された課題や提案を多方面かつ深く議論するための検討体制としては残念ながらあまり機能しませんでした。社会からの要請の高まりに従い、新たな知識と技能、価値観が加わった教養教育はいつそう重要性が増しています。共通教育はそのような教養教育を担う全学の智慧を集結した教育システムです。来年度からは検討体制を見直し、専門性と学際性を併せ持つ本学独自の共通教育をあらたに創って行かれることを切に望んでいます。

――

DS 部会長に対しまして、座長から以下のように回答します。

DS 部会長ご自身が DS 教育の企画実施に対して強い責任感と使命をお持ちであることに敬意を表します。単位配当モデルケースの表で「数理・DS・AI 教育科目」の卒業要件単位数は4単位とします。

DS 教育は部会長のみならず、全学の協力と支援が必須です。それゆえ、DS 教育に対する視野を広げるなら、DS に関連する教育は理系だけではなく、文系やその他学際的な学問領域であっても将来的に担当や実施が可能であると考えています。

1つは、5大教育科目区分の1つとして立てた「数理・DS・AI 教育科目」の趣旨とその教育目的を果たすためのカリキュラム（授業科目メニュー）に関連します。「数理・DS・AI 教育科目」は文科省のリテラシーレベルの認定プログラムを実施するため「だけ」に設置したわけではなく、広い意味で今後 STEAM 教育につながる

る数学的センス、デザイン指向、言語学のおよび論理的思考、感受性や感性などを育成するねらいをもつ科目になると座長は認識しています。従いまして、今現在はカリキュラム設計の途上で、将来的にこの教育科目がもつ特性と伸びしろを期待しているのです。この座長の基本的考えは第7回 WG 議事要録に記載されています。

2つ目に、数学や統計学、論理学、プログラミング等の授業科目は、共通教育開講でも学部開講でも実施形態は問いません。応用基礎レベルの DS 基礎は「数理・DS・AI 教育科目」に配置していますが、学部開講で全学開放科目としています。上記の授業科目群も DS 基礎の授業と同様に「数理・DS・AI 教育科目」の内容の充実に寄与できるのではないのでしょうか。今後の議論において、「数理・DS・AI 教育科目」を時間をかけて大切に育み、その内容を充実・向上させることを望みます。

――

共通教育再編 WG 座長 奥田一雄